

3 2回目評価

3-① 自己評価 【評価日：3月5日】

評価者・組織(名称)：学校評価委員会

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	わかる授業の創造	生徒アンケートによる意識分析	・「1人も取り残さない授業」の工夫として、グループワークや学び合い活動を基軸とした授業改善を進めてきた。昨年度より多くの授業で取り入れられるようになってはいるものの、校内体制としては不十分である。	・「グループワーク」や「ペアワーク」を取り入れながら、「学び合い」に重点をおいた授業改善を推進し、生徒間のコミュニケーション力や自他の考え方の理解をふまえた言語力の育成を図る。この点に関して次年度は校内体制としてより実践と検証を重ねていきたい。 ・家庭学習習慣については、意識付けから課題の内容まで、学年と教科がより連携しながら工夫改善を図っていく。
	家庭学習の充実	生活調査による分析	・家庭学習については、独自に開発してある英単語定着プリントを校内体制として推進してきた。毎日の課題としての成果はあったが、それ以上の自主的な予習・復習までは十分至っていない。	
2 豊かな心	ゆたかな心の育成	道徳教育の充実	・道徳教育については、時間を確保し、計画的に道徳の授業を進めることができた。また研究指定を受け、「規範意識」について各ステージで規範意識の醸成に関する指導や、平素の生徒十訓の取組の推進を図った。	・道徳は、次年度も時間の確保は当然のこと、引き続き「規範意識の醸成」を図る指導を各ステージ毎に推進したい。また、道徳の時間の授業参観を実施し、保護者啓発を行っていただき。 ・国際理解教育や多文化理解について、今年度と同じく3年間の見通しをしっかりと立てて指導にあたっていただきたい。すべての教育活動で人権尊重の指導をさらに推進する。
	人権意識の向上	人権学習・国際理解教育の充実	・教師が高い人権意識をもち、生徒の会話や行動においても常に生徒十訓を意識した指導を心がけてきたが、概ね成果はあったが、十分に生徒に浸透していないことがアンケートからわかった。	
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	生徒アンケートによる意識分析	・アンケートより、朝食と睡眠について、「十分とれていない」という回答が学年が上がに伴い多く、基本的生活習慣のより一層の指導、保護者への啓発を図る必要がある。	・今年度に引き続き、校内のみならず小学校と連携して生活アンケートを実施し、本校生徒の実態を分析するとともに、課題を明確化し、それに対する指導を行う。また家庭にも学校便り臨時号や保護者会等で啓発を推進する。 ・スマートフォンへやネットへの依存を改善しない限り、基本的生活習慣の改善は望めない。情報モラル指導をより充実し、自律ある家庭生活が送れるよう(保護者啓発も含め)指導する
	歯・口の健康づくり	う歯・口腔疾患治療率	・う歯と口腔疾患の治療率が低く、治療の促進と歯磨きの励行指導が必要である。 夜遅くまでメールやゲーム等をしている生徒が多く、家庭学習の短さと併せて、家庭での過ごし方の対策が必要である。	
4 学校独自の取組	小中連携の取組	小中合同研修会の充実	・小中合同研修会は、連携の意識向上につながった。特に今年度は「言語活動」に焦点をあてた合同研修をもつことができた。また昨年度に引き続き、教科・専門領域ごとの分散会を設定し、それぞれの指導法について交流ができた。	・小中共通のねらいを具現化し、PDCAの評価サイクルにあわせた取組の推進を徹底する。 ・言語活動の充実をテーマとした授業改善や連携を、今年度以上に推進していく。 ・生徒十訓の取組は今後も学校の安定化を図るため、さらに生徒のキャリア形成を図るためのキーワードであり、教職員の意識の高揚を徹底し、生徒とともに取組を推進していく。
	小中各種主任会の実施		・2年前に生徒会で制定した生徒十訓の取組を引き続き、委員会を主体として、学校生活全ての場面で実践できるよう教師サイドも指導した。さらに意識の高揚と工夫を図る必要がある。	
	生徒十訓の取組	生徒アンケートによる分析		

3-② 学校関係者評価 【評価日：

評価者・組織：学校運営協議会、学校評議員(いずれかに○)】

評価結果	改善に向けた支援策
1年間を振り返り、総体的によく頑張れた1年であった。特に①学力向上へ向けた「学びあい」等、学習形態の工夫②規範意識の醸成へ向けた研究指定を通じた実践③学校行事における3年生の活躍④校内研修の活性化など、教職員が意識をもって臨んでいる点においては、一定の評価ができる。反面、家庭学習における大人の意識が低い面が多く見られるため、もっとより活発に保護者や地域に啓発する機会をつくってほしい。地域における問題行動については大きなことはなかったが、生徒たちの健全育成のため引き続き地域・保護者とも連携を取りつつ対処してほしい。	地域の中で、生徒の活動の場をもっと広げていくために、協力できることは進めていきたい。生徒による地域でのゴミ拾い等のボランティア活動を実施してきたが、次年度も地域のクリーン活動等を積極的に行い、保護者の方とも連携した活動を計画していきたい。家庭教育力の向上を図るために、地生連等とも連携を図りながら啓発活動を進めたい。

4 総括・次年度の課題

全体的に意欲をもって取組を進めることができた年であり、一定の成果があったと言える。次年度もいくつかの項目において引き続き取組・分析・評価を進め、学校力のスパイラルアップができるように実践していく。特に①授業改善に向けた学びあいの推進(向島スタイルの確立)②規範意識醸成のための生徒十訓の更なる定着と道徳での指導③う歯・口腔疾患治療率アップに向けた啓発と指導を重点として生活習慣の定着をめざした取組を推進していく。